

Sexuality Education for Children with Intellectual Disabilities in Schools for Special Need Education : Study on the descriptive survey for the teacher and parent

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30390

知的障がいのある児童生徒に対する性教育

— 教職員と保護者に対する調査から —

河田史宝、佐藤春香

Sexuality Education for Children with Intellectual Disabilities in Schools for Special Need Education: Study on the descriptive survey for the teacher and parent

Hitomi KAWATA and Haruka SATO

1. はじめに

近年、特別支援教育の対象となる児童生徒に対する性教育の必要性和重要性はますます認識されてきている¹⁾。WHOでは性的健康とは「性に関して、身体的、情緒的、精神的、社会的に良好な状態 (well-being) であること」と定義されている。そのうえで、「性的に健康であるためには、性と性的関係において肯定的で敬意ある態度が要請され、強制や差別や暴力から自由で、楽しく安全な性的経験を持ちうる可能性が要求される。性の健康を獲得し維持するためには、すべての人々の性の権利が尊重され、保護され、実現されなければならない」としている²⁾。そして、精神障がい、身体障がいなどの障がいがある人たちも当然含めて、この性の健康の促進が大切で、そのために「性のあらゆる面に関する知識、態度、スキルならびに価値観を供給し、かつ受容させる、人生の早い時期から始め、そして年齢や発達に適応した、生涯の長きにわたる」「包括的な性教育」が必要であるという行動計画が性の健康世界学会において宣言された³⁾。

障がいのある人が、その年齢に応じた生活をするのが当たり前という考えが普及し、「結婚」や「性」も含めて語られるようになり、性教育の考え方も「性の権利 (Sexual rights)」を基本とするようになってきた。それにともない障がいのある児童生徒への性教育の大切さが再認識され始めた。近年では障がいのある児童生

徒の思春期における性への目覚めや葛藤を、問題行動として抑圧するのではなく、ライフステージに応じた発達課題として、学校や家庭で適切に指導することが重要と考えられている。性教育のこうした変化について、性器教育・生理教育を中心とした従来の Sex Education から、性にかかわる自己確立と社会的人格の完成を目標とした Sexuality Education への発展と捉えている。さらに海外では、性的成熟と人間関係の双方の観点から教えていく Sex and Relationship Education (SRE) という形での考え方が取り入れられてきている⁴⁾。

日本では、文部省から発刊されている「学校における性教育の考え方・進め方」が性教育を進める際に基本として使用されている。特別支援学校における知的障がいのある児童生徒の行動に対して、教師自身も「自分の性器を触る」「友達や教員に抱きつく」など体験し、問題意識をもっている⁵⁾。また、保護者も「性器いじり」「人前でマスターベーション」「月経の手当」に困っている現状がある⁶⁾。そのことから、性教育の必要性を感じている保護者の多くは、性に関する窓口を希望している⁷⁾。

そこで、本研究は、知的障がいのある児童生徒に対する性教育の実態と、教師や保護者の性教育に対する考えやニーズを把握することを目的とする。

II. 研究方法

1. 調査対象・調査方法

調査は2009年10月に、A県内の知的障がいのある児童生徒が在籍する特別支援学校14校の教員337名、保護者612名(306家庭)を対象とした。教員はすべての学部(小・中・高)の教員、保護者は中学部・高等部に在籍する保護者を対象とした。質問紙は学校長宛に必要部数をまとめて郵送し、学校において配布を依頼した。教員175名(回収率51.9%)、保護者137名(回収率22.4%)を分析対象とした。各学校の設置形態は、国立1校、公立13校であった。

2. 調査期間

調査期間は2009年10月26日から2009年12月4日である。

3. 調査内容

質問紙の調査項目は、教員対象では「学校での性教育実践の状況」「児童生徒の性行動で困ったこと」「性教育実践における困難さについて」「家庭と学校の性教育分担に関する考えについて」「性教育に際しての家庭連絡」「家庭からの性教育の要望内容」「調査対象者の個人属性」など全19項目、保護者対象では「子どもの性的行動で困ったこと」「家庭での性教育の実践について」「家庭と学校の性教育分担に関する考えについて」「学校の性教育について」「調査対象者の個人属性」など全21項目である。

なお、教員と保護者には、性教育の内容11項目に対する意識を[1:家庭 2:どちらかといえば家庭 3:どちらでもよい 4:どちらかといえば学校 5:学校 6:教える必要はない 7:学校と家庭以外の場]の7件法で質問した。

4. 倫理的配慮

学校長に対し、事前に口頭にて研究の目的、活用方法、質問紙内容を説明した。その後、承諾の得られた学校に質問紙と封筒を郵送した。

質問紙の表紙に、研究目的、活用方法、調査結果は研究のみに使用し、学校、児童生徒、保護者、教員の個人の秘密は守られること等について記した。回答は無記名とし、他者の目に触れることのないよう1部ずつ封筒に入れ、回収箱に提出する方法とした。各学校から回収された質問紙を、郵送により受け取った。

5. 分析方法

パーソナルコンピュータに入力し、統計ソフトSPSS For Windows 10.1J、Microsoft Office Excel 2003を用い、分析を行った。自由記述による回答は内容の要素を、意味を変えない程度に記述項目としてそれぞれ抽出し、整理・分析し検討を加えた。分析手順としては、記述の内容から意味内容の類似性により分類し(サブカテゴリー)を命名した。さらに、(サブカテゴリー)を類似した意味内容のものを集めて分類した。分析は、研究者間で繰り返し行い、【カテゴリー】を命名した。平均値は、t-検定にて確認した。

III. 分析結果

1. 教員対象調査

1) 教員の背景

(1) 学部・職種

対象者の勤務する学部・職種を表1に示した。

学部・職種	人数	(%)
小学部	50	(28.6)
中学部	53	(30.3)
高等部	63	(36.0)
養護教諭	2	(1.1)
訪問教育	5	(2.9)
無回答	2	(1.1)
合計	175	(100.0)

内訳は、高等部が最も多く、次いで中学部が多かった。

(2) 経験年数

教員経験年数無回答者5名を除いた対象者の教員経験年数は、平均13.1年(標準偏差±9.4)

であった。

2) 学校での性教育の実態

(1) 性教育の実施状況と実践している理由

性教育の実施は、「行っている」96名(54.9%)、「行っていない」73名(41.7%)、無回答6名(3.4%)であり、学校での実施状況は半数であった。

性教育を実践していると回答した96名の性教育を実践している理由(複数回答)を図1に示した。

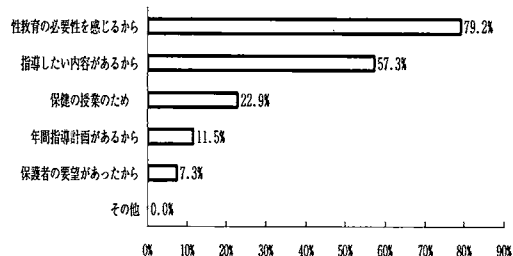


図1 性教育を実践している理由(n=96)

「性教育の必要性を感じるから」76名(79.2%)が最も多く、「指導したい内容があるから」55名(57.3%)が実践の理由として多く示された。

(2) 性教育の実施状況

性教育を実践していると回答した96名を対象に実施状況を分析した。

性教育の指導形態(複数回答)を図2に示した。

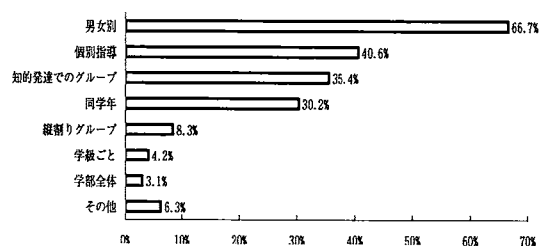


図2 性教育の指導形態(n=96)

「男女別」64名(66.7%)に実施している割合が最も多く、次いで「個別指導」39名(40.6%)、

「知的発達でのグループ」34名(35.4%)、「同学年」29名(30.2%)であった。「縦割りグループ」、「学級ごと」、「学部全体」は少なかった。

「その他」6名(6.3%)は、「学校教育活動全体」、「必要と感じた場面でその都度」などがあげられた。

性教育に関わった教職員(複数回答)の状況を図3に示した。

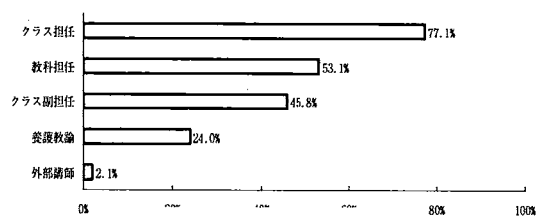


図3 性教育にかかわった教職員(n=96)

「クラス担任」74名(77.1%)が最も多く、次いで「教科担任」51名(53.1%)、「クラス副担任」44名(45.8%)であった。「養護教諭」23名(24.0%)、「外部講師」2名(2.1%)は少なかった。「外部講師」は「助産師」であった。

性教育実践後の児童生徒の意識・行動の変化を図4に示した。

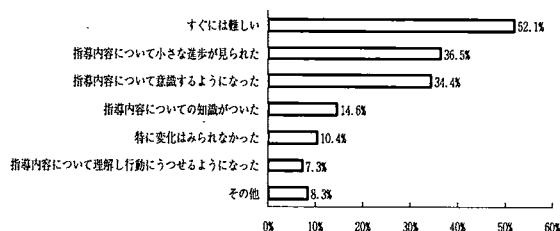


図4 性教育実践後の児童生徒の意識・行動の変化(n=96)

「すぐには難しい」50名(52.1%)、「指導内容について小さな進歩が見られた」35名(36.5%)、「指導内容について意識するようになった」33名(34.4%)の割合が多く、「指導内容についての知識がついた」、「特に変化は見られなかった」、「指導内容について理解し行動にうつせるようになった」は少なかった。「その他」

8名(8.3%)の内容は、「指導後数日は行動に変化がある場合もみられる」があげられた。

性教育実践によって児童生徒たちに期待する(望ましい)姿を図5に示した。

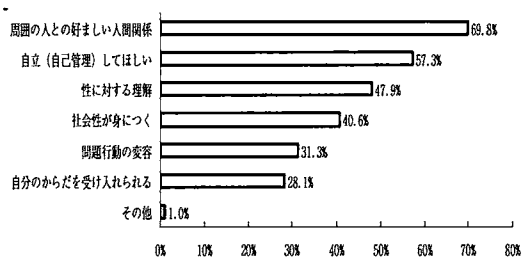


図5 性教育実践によって児童生徒たちに期待する(望ましい姿)

「周囲の人との好ましい人間関係」67名(69.8%)が最も多く、次いで「自立(自己管理)してほしい」55名(57.3%)、「性に対する理解」46名(47.9%)、「社会性が身につく」39名(40.6%)であった。「その他」1名(1.0%)の内容は「女子生徒には妊娠対策としての取り組み、男子生徒は性衝動の抑制、好ましい恋愛をしてほしい」があげられた。

(3) 性教育を実践しない理由

性教育を実践していないと回答した73名に対し、性教育を実践しない理由(複数回答可)を尋ねた結果を図6に示した。

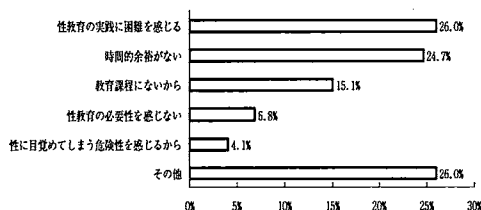


図6 性教育を実践しない理由 (n=73)

「性教育の実践に困難を感じる」19名(26.0%)、「時間的余裕がない」18名(24.7%)が多く示された。

「その他」19名(26.0%)では、「自分自身で詳しく指導したことがない」「今後実施予定」な

どがあげられた。

(4) 学校で実際にあった児童生徒の性的行動で困ったこと

学校で体験した児童生徒の性的行動で困ったことの結果を図7に示した。

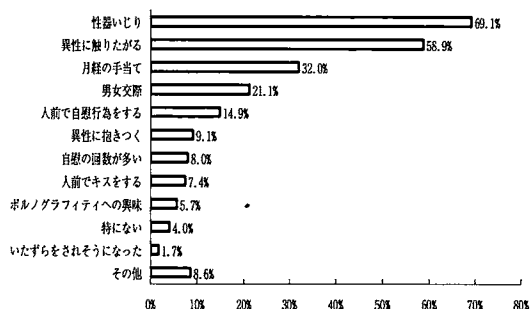


図7 児童生徒の行動で困ったこと (n=175)

「性器いじり」121名(69.1%)、「異性に触りたがる」103名(58.9%)、「月経の手当て」56名(32.0%)の割合が多く、次いで「男女交際」37名(21.1%)、「人前で自慰行為をする」26名(14.9%)の割合が多く示された。「その他」15名(8.6%)は、「男女の距離のとり方」「人前で性器を出してしまう」「障害からくる言動(トゥレット)でひわいな言葉を大声で言う」「腰をふるなどあやしい行動」などがあげられた。

(5) 性教育を実践する際に困難感とその原因

性教育を実践する際に困難を感じるかを尋ねた。無回答4名を除き図8に示した。

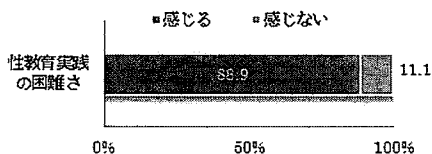


図8 性教育を実践する際に困難を感じるか (n=175)

「はい」152名(88.9%)と多くの教員が困難を感じていた。

性教育を実践する際に困難に感じると回答し

た152名に対し、そのように感じる原因（複数回答）を尋ねた（図9）。

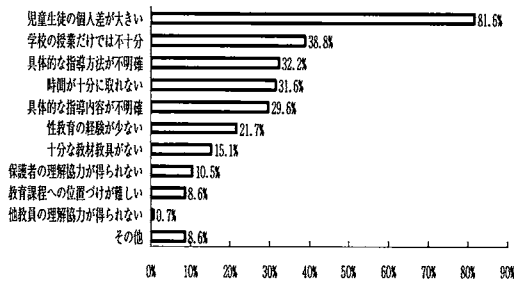


図9 性教育をする際に困難に感じる原因 (n=152)

性教育を実践するうえでの困難と感じる原因として「児童生徒の個人差が大きい」124名（81.6%）が最も多く示された。次いで「学校の授業だけでは不十分」59名（38.8%）、「具体的な指導方法が不明確」49名（32.2%）、「時間が十分に取れない」48名（31.6%）、「具体的な指導内容が不明確」45名（29.6%）と教育課程や指導方法に関する内容が多く示された。教員自身に関する「性教育の経験が少ない」は33名（21.7%）であった。「十分な教材・教具がない」「保護者の理解協力が得られない」「教育課程への位置づけが難しい」「他教員の理解協力が得られない」に対して割合は少なかったが原因としてあげられていた。

「その他」13名（8.6%）の内容は、「指導したい内容と認知・理解面の不十分さ、かねあい」、「どの程度まで内容を伝えたらよいのか難しい」、「性に関する関心をあおるような結果になりかねない」と考えるから「社会的モラルの問題もあるので、その理解（意識づけ）が難しい」「児童生徒の実態を十分に把握できずに授業すること」などがあげられた。

（6）性教育を実践しやすくする方法

性教育を実践しやすくする方法の結果を図10に示した（複数回答）。

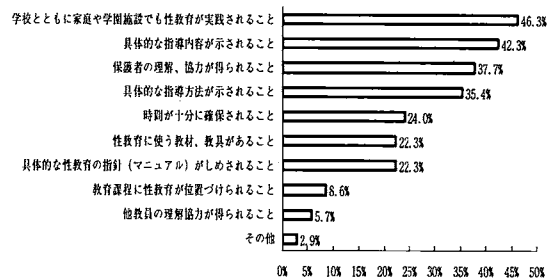


図10 性教育をしやすくする方法 (n=172)

「学校とともに家庭や学園施設でも性教育が実践されること」81名（46.3%）、「具体的な指導内容が示されること」74名（42.3%）、「保護者の理解、協力が得られること」66名（37.7%）、「具体的な指導方法が示されること」62名（35.4%）が多く示された。割合は少なかったが「教育課程に性教育が位置づけられること」15名（8.5%）、「他教員の理解協力が得られること」10名（5.7%）も方法として示された。

「その他」5名（2.8%）は、「性教育とせず他と関連づけるとより自然にできるのでは」、「身辺自立や清潔など広い範囲の内容が性教育であることへの理解」、「子どもへの接し方の共通理解」、「内容や方法ではなく、子どもそれぞれがどのように受け止め行動に表出するかで、教員がどこまで踏み込めるかどうかかわかること」などがあげられた。

3）学校と家庭との性教育の連携

（1）事前、事後連絡の有無

性教育を実践していると回答した96名に、性教育を行う際に事前、事後連絡の有無の結果を示した。いずれも連絡を行った割合が高かった（図11）。

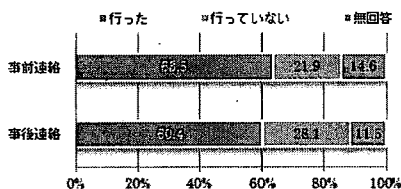


図11 性教育の授業前後の連携の有無 (n=96)

(2) 保護者からの性教育の要望

保護者から性教育の実施の要望があったかどうかでは、保護者から性教育を要望された教員の割合は少なかった(図12)。



図12 保護者からの性教育の要望 (n=175)

表3 子どもの学年 (n=137)

学年	人数	(%)
中学部1年	12	(8.8)
中学部2年	33	(24.1)
中学部3年	8	(5.8)
高等部1年	33	(24.1)
高等部2年	19	(13.9)
高等部3年	28	(20.4)
無回答	4	(2.9)
合計	137	(100.0)

2) 保護者の性教育の必要性とその理由

対象者137名に、現在自分の子どもには性教育が必要であるかを尋ねた結果を図13に示した。

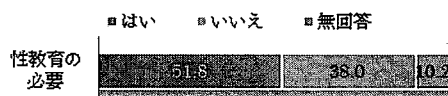


図13 自分の子どもに性教育の必要性 (n=137)

2. 保護者対象調査

1) 対象者の背景

(1) 年齢と性別

無回答7名を除いた130名の平均年齢は46.8歳(標準偏差±5.9)であった。

対象者の性別では、女性の方が多かった(表2)。

表2 保護者の性別 (n=137)

性別	人数	(%)
男	55	(40.1)
女	81	(59.1)
無回答	1	(0.7)
合計	137	(100.0)

(2) 対象者の子どもの学年

対象者の子どもの学年を表3に示した。内訳は中学部2年、高等部1年が最も多く、次いで高等部3年であった。

「はい」71名(51.8%)、「いいえ」52名(38.0%)であり、「はい」と回答した人数が多い結果となった。

それぞれの理由は自由記述で挙げてもらい、記述内容のカテゴリー化を行った。

現在、自分の子どもには性教育が必要であると答えた理由からは、【社会に出た時に困らないようにするため】31.0%、【性に関する正しい知識が必要だから】16.9%、【子ども自身の発達から必要性を感じる】15.5%、【性に関する興味が見られるから】14.1%、【親自身がうまく教えられないから】4.2%の5カテゴリーが抽出された(表4)。

5カテゴリーは、〈自分自身の身を守るため〉、〈社会に出たときに困らないようにするため〉、〈他人の目を気にしない行動をするため〉、〈誤解がないようにするため〉の4サブカテゴリーから【社会に出た時に困らないようにするため】、〈正しい知識が必要だから×教育の内容が理解出来るから〉〈教えないとわからないものだから

ら〉〈男女の違いの理解が必要のため〉〈性に対して理解がないから〉〈理解出来る能力がある〉の6カテゴリーから【性に関する正しい知識が必要だから】、〈年長的に必要であると思うから〉〈定型発達しているため×本能があるから×教育の内容が理解出来るから〉の4サブカテゴリーから【子ども自身の発達から必要性を感じる】、〈性的な情報メディアに触れているため〉〈異性への興味がみられるため×性に関する興味があるから〉〈異性とのかかわりが不安だから〉のサブカテゴリーから【性に関する興味が見られるから】、〈親自身がうまく伝えられないから〉〈親の話を受けないから〉の2サブカテゴリーから【親自身がうまく教えられないから】であった。【社会に出た時に困らないようにするため】では、本人の意志にかかわらず妊娠してしまうことや、自分のからだを傷つけてしまわないようになど、子どもが女性である保護者からの意見が多かった。【性に関する正しい知識が必要だから】では、必要性を感じるものの障がいがあることで教育は難しいと考える意見がみられた。【子ども自身の発達から必要性を感じる】では、今までは性教育は必要でないと考えていたが、子どもの二次性徴が見られることから必要性を感じるようになったという記述内容があった。

現在、自分の子どもには性教育が必要はないと答えたものの理由からは、【性教育の内容が理解できないから】77.8%、【性に目覚めてしまう恐れがあるから】7.4%、【興味がなさそうだから】7.4%、【学校での性教育は必要ないと感じているから】3.7%、【マナーとしての性教育は必要である】3.7%の5カテゴリーが抽出された(表5)。

5カテゴリーは、〈障がいの程度(重度)により理解できないから×発達段階から考えてまだ早いから〉〈理解できないと思うから〉の3個のサブカテゴリーから【性教育の内容が理解できないから】、〈性に目覚めてしまう恐れがあるから〉のサブカテゴリーから【性に目覚めてしま

う恐れがあるから】、〈興味がなさそうだから〉から【興味がなさそうだから】、〈学校での性教育は必要ないと感じているから〉から【学校での性教育は必要ないと感じているから】、〈マナーとしての性教育は必要である〉から成る【マナーとしての性教育は必要である】であった。

【性教育の内容が理解できないから】では、今は必要ないと思うがいずれは必要になるという記述内容もみられた。

現在、性教育が必要かどうかわからないと答えたものの理由からは、【理解できないと思うから】50.0%、【いずれは必要になる】25.0%、【特に必要性を感じない】25.0%の3カテゴリーが抽出された。

3カテゴリーは、〈理解できないと思うから〉の1つのサブカテゴリーから【理解できないと思うから】、〈いずれは必要になる〉のから成る【いずれは必要になる】、〈特に必要性を感じない〉から成る【特に必要性を感じない】であった。

【特に必要性を感じない】では、性教育として新しい知識をわざわざ教えたくないという記述内容があった。

3) 性に関することを子どもに教えるにいと感 じる理由

対象者137名に、性に関することを子どもに教えるにいと感じたことがあるかを尋ねた結果、「はい」71名(51.8%)、「いいえ」41名(29.9%)、無回答25名(18.2%)であった。

性に関することを教えるにいと回答した71名に対し、自由記述で理由を尋ね、その結果をカテゴリー化した(表6)。

【性に関する内容に教えるにくさを感じるから】48.8%、【子どもが性教育の内容を理解できないため】39.8%、【子どもが異性だから】6.1%、【子どもが性に関する話を嫌がるから】3.0%、【性教育の必要性を感じないから】3.0%の5カテゴリーが抽出された。カテゴリーはくどの内容を教えたらいいかかわからない×子どもの理解度がわからない〉〈全てが教えるにいと〉〈子ども

の性的行動に対してどのように話せばいいかわからない) <「性行為」について教えるににくい>、<「自慰行為」について教えるににくい> <性に関する話をするに抵抗を感じる×家庭での性教育に難しさを感じるから> の8サブカテゴリーから【性に関する内容に教えるににくさを感じるから】、<子どもが理解できないため> <言葉の意味を理解できないから×子どもが性に関する興味がないから> <異性の違いがわからないから> <子ども自身の障がいのため×善悪の区別がないから> の6サブカテゴリーから【子どもが性教育の内容を理解できないため】、<男の気持ちがわからない> <子どもが異性だから> の2サブカテゴリーから【子どもが異性だから】、<子どもが性に関する話を恥ずかしがるから×子どもが性に関する話を嫌がるから> の2サブカテゴリーから【子どもが性に関する話を嫌がるから】、<性教育の必要性を感じないから> から【性教育の必要性を感じないから】である。【性に関する内容に教えるににくさを感じるから】では、保護者自身も性教育を受けたことがないためどのように教えたらいのかかわからないことがあげられた。

4) 学校で性教育が十分に行われているか

対象者137名に対し、学校で性教育が十分に行われていると思うかを尋ねた結果、「はい」15名(10.9%)、「いいえ」67名(48.9%)、無回答55名(40.1%)であった。

それぞれの理由を自由記述で挙げてもらい、記述内容のカテゴリー化を行った。

学校で性教育が十分に行われていると感じる理由では、【学校で行ってくれたことがあることを知っているから】【障害の程度から十分に感じるから】の2カテゴリーが抽出された(表7)。カテゴリーは<先生が指導してくれているという実感があるから×学校でできたことを子どもが家庭で話してくれたから×先生から直接聞いたため>の3サブカテゴリーから成る【学校で行ってくれたことがあることを知っているか

ら】、<障がいの程度(重度)から十分に感じるから>の1個のサブカテゴリーから成る【障害の程度から十分に感じるから】である。

学校で性教育が十分に行われていないと感じる理由では、6カテゴリーが抽出された(表8)。カテゴリーは<実施していることを聞いたことがない×学校の教育内容がわからないから×情報が少ない> <学校から連絡がないから>の4サブカテゴリーから【学校からの性教育を実践しているという連絡がないから】、<個人差があるから> <子どもの理解力がないから>の2サブカテゴリーから【子どもの理解力などの個人差があるから】、<「家庭に任せる」と担任から言われたから×相談したが指導してくれなかったから>の2サブカテゴリーから【学校に性教育を希望したが実践してくれないから】、<子どもから話が出ないから>から【子どもとの会話から】、<学校での授業の時間がなさそうだから×授業にない>の2サブカテゴリーから【教育課程にないから】、<必要性を感じないから>から成る【必要性を感じないから】であった。

学校で性教育が十分に行われているかどうかかわからない理由では、【性教育を実践していることを聞いた事がない】66.7%、【個別には対応してくれていると感じる】33.3%の2カテゴリーが抽出された。【個別には対応してくれていると感じる】は、<聞いてはいるが性教育の実践はされていると思う×個別にはしてくれてはいると思う>から成っていた。

5) 学校に望む性教育

学校に望む性教育について自由記述で尋ねたものをカテゴリー化した。【個に応じた性教育】28.6%、【親へのアドバイス】23.8%、【総合的な性教育】23.8%、【男女の体のつくりとはたらき】9.5%、【学校での教育内容の情報公開】4.8%、【男女に分けた教育】4.8%、【どのようにお願いをしたらいいかわからない】4.8%の7カテゴリーが抽出された(表9)。

カテゴリーは〈本人のレベルに合った性教育〉〈個に応じた性教育〉〈認知力・理解力に応じた性教育〉の3サブカテゴリーから【個に応じた性教育】、〈親子で参加できる性教育〉〈具体的な傾向と対策についてのアドバイス×親への勉強会〉〈障害の程度によりどこまで教えるべきか〉の4サブカテゴリーから【親へのアドバイス】、〈全部×いろいろ×正しい知識×性の大切さ、恐さ〉の4サブカテゴリーから【総合的な性教育】、〈男女の体のつくりとはたらき〉のサブカテゴリーから【男女の体のつくりとはたらき】、〈どのようなことを教えているのか教えてほしい〉から【学校での教育内容の情報公開】、〈男女に分けた教育〉から【男女に分けた教育】、〈どのようにお願いをしたらいいかわからない〉から成る【どのようにお願いをしたらいいかわからない】であった。

3. 性教育の内容と指導の場

教員と保護者に11項目の性教育の内容について、どちらで教えるとよいを7件法で質問した。「教える必要はない」「学校家庭以外の場」と回答したものを除いて、「家庭(1)」「どちらかといえば家庭(2)」「どちらでもよい(3)」「どちらかといえば学校(4)」「学校(5)」の評定尺度を設けた。「どちらでもない」の3点を中心におき1から5の配点を行った。したがって、得点が低いほど家庭で教える傾向、5に近いほど学校で教える傾向が強調される。

保護者は、「からだの清潔、身だしなみ」は家庭で教える傾向の考えであった。「親になることの責任と役割」「生命誕生のしくみ」「男女の体のつくりと働き」「性交」「思春期における心とからだの発達」の順に学校で教えるように考えていた。教員は「からだの清潔、身だしなみ」は家庭で教える傾向の考えであり、保護者と同様の傾向を示した。「生命誕生のしくみ」「思春期における心とからだの発達」「親になることの責任と役割」「男女間の友情と愛情」の順に学校

で教えるように考えていた。「幼児の保育」(p<.001)、「結婚における男女の役割と協力」(p<.01)、「男女交際の仕方」(p<.01)、「男女間の友情と愛情」(p<.05)において有意差が認められ、いずれも教員に比べて保護者の方が家庭で教える内容として考えていた。「男女の体のつくりと働き」(p<.05)、「性交」(p<.05)において有意差が認められ、いずれも教員に比べて保護者の方が学校で教える内容として考えていた。

表10 教師と保護者との性教育の場の考え

内容	保護者		教員		有意差
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
からだの清潔、身だしなみ	1.86 ± 1.017		2.04 ± 0.901		
結婚における男女の役割と協力	2.48 ± 1.400		2.95 ± 1.183		**
避妊の方法	2.59 ± 1.278		2.78 ± 1.139		
乳幼児の保育	2.77 ± 1.308		3.29 ± 0.984		***
男女交際の仕方	2.92 ± 1.161		3.29 ± 0.950		**
男女間の友情と愛情	3.32 ± 1.070		3.59 ± 0.833		*
思春期における心と体の発達	3.56 ± 1.088		3.70 ± 0.914		
性交	3.62 ± 1.159		3.30 ± 1.015		*
男女の体のつくりとはたらき	3.70 ± 1.101		3.41 ± 1.006		*
生命誕生のしくみ	3.86 ± 1.004		3.83 ± 0.886		
親になることの責任と役割	3.88 ± 0.968		3.68 ± 0.973		

IV. 考察

性には、思春期の精通や初経、青年期以降の性交、妊娠、出産、子育て、更年期、閉経、勃起不全、高齢期に至るまで、ライフステージごとに健康課題がある。障がいがある児童生徒も障害のない児童生徒も成長発達する過程で、このような課題に直面する。しかし、障がいがあることによって、情報や教育などの面で十分な支援が受けられないことがある⁸⁾。また、特別支援学校を卒業し社会人となった人の中にも、性的な感情や欲求を抑えきれず行動を取ってし

まい問題となるケースや、性的な被害を受けてしまうケースも少なくない^{9) 10)}。

このようなことから、思春期や青年期に生じる性の健康課題は課題として受け止め、障がいがある児童生徒の成長と個別性に合わせて、性に関する正しい知識を身につけることや、人との関わりを指導していく必要がある^{11) 12)}。

性教育の必要性は、先行研究において、教員は性教育の必要性を感じている割合が高い報告¹³⁾、保護者も性教育が必要であるとと感じている割合は高い報告がある¹⁴⁾。本研究においても、性教育を必要と感じている保護者は51.8%であり、教員も性教育実践の理由として「性教育の必要性を感じるから」79.8%をあげていることから、教員も保護者も性教育を必要と考えているものが多いという先行研究の結果と同様に性教育の必要性を感じているといえる。

性教育の必要性では、保護者は【性教育の内容が理解できないから】と性教育の必要性がないと考えている保護者もいた。その理由は、障害の程度により理解できないと考えることや発達段階から早いという理由であった。その反対に、性教育が必要と考えた保護者は、今までは性教育は必要でないと考えていたが、子どもの二次性徴がみられることから必要性を感じるようになったと理由をあげていた。子どもの二次性徴の発現を確認したことで保護者は【子ども自身の発達から必要性を考える】ことが考えられる。しかし、子どもの発達には個人差がある。そのため、子どもの成長発達を、現時点の体の成長発達の状態からとらえるのではなく、子どもが将来どのように成長していくのかを見通した視点で、子どもの発達をとらえることが必要である。そのような視点を教員から保護者に伝えていくことにより、発達段階に応じた性教育の内容を保護者が理解できると考える。

性教育を行う上で個人差を考慮することは大切な視点であり、特別支援教育においても同様である。

個人差は、教員の性教育実施の困難感や性教

育を実施していない理由として上げられている¹⁵⁾。また、心と体に関して保健室を中心に教育活動をしている養護教諭にとっても、性教育の実施において児童生徒の個人差が困難感になっていた¹⁶⁾。本研究では、性教育の実践の学習形態は、男女別に行う割合が多く、次いで個別指導、知的発達でのグループであり、集団、個別、グループ指導が並行して行われていると考えられる。性教育を行っていく際、基本的には障害がない児童生徒と同様であるが、各障害種別の特性を十分踏まえたうえで指導内容の選択や方法を考慮していく必要がある¹⁷⁾。また、障害がない児童生徒においても性に関して心身の成長と知識・経験など個人差が大きいため集団指導と個別指導を適切に行うことを配慮して実施する必要がある¹⁸⁾。保護者も【個に応じた性教育】を学校に望んでおり、<本人のレベルにあった性教育><認知力・理解力に応じた性教育>を望んでいる。このことから性教育を教育課程に位置付けて系統的に実施すると同時に、指導内容は、障害発達でのグループ指導、個別指導を組み合わせることで個人差に対応していく必要がある。

個別指導を行う上では、子どもの家庭での実態を把握する必要があり、そのために、家庭との連絡体制も整える必要がある。個別指導に携わる事前の情報収集として対象となる本人の実態（障害特性、心身の発達、課題、家族構成、家庭環境、支援者）と保護者の実態（保護者の意向、本人への日常的対応、性に対する意識や希望）がポイントとなる¹⁹⁾。そして個別指導後は、学校で学んだこと家庭に伝えることはもちろん、家庭での性教育をフォローするような活動（親子参加の勉強会、お便りの発行など）を積極的に取り入れていくことが家庭での実践につながると考える。

本調査においても保護者は、どのような内容を子どもの理解度に合わせて教えたらよいのか分からないといった実態があった。また、教える内容では、「男女の体のつくりとはたらき」「性

交」の内容は、保護者は学校で教えてほしいと考え、教員は家庭で教えてほしいと考えており、両者の意識は異なっていた。保護者が学校に望む性教育の内容に【男女の体のつくりと働き】をあげていることを合わせて考えると、保護者は教えにくい内容と捉えていることが考えられた。

保護者が学校に望む性教育の内容には、【子に応じた性教育】とともに【親へのアドバイス】があった。その内容は、親子で参加できる性教育、具体的なアドバイス、親への勉強会などである。大久保ら（2008）の調査においても、保護者の学習の場として8割を超える保護者が性教育に関する自らの学習の場を必要としていた²⁰⁾。その理由の一つは障害がない児童生徒の親は自分の経験にもとづいて、子どもに性教育することが出来るのに対して、障がいのある児童生徒の親は自分の経験があまり役立たず、どのように指導したらよいか戸惑っていることがある。もう一つの理由としては、障がいのない児童生徒の保護者に比べて学校以外のところから得る性情報が乏しいことである¹³⁾。原（2010）は、教員も性教育の実施に不安を持っていたが、「話し合うこと自体に効果」があり、「自分と似た悩みを持つ人がたくさんいることが分かり」、「不安や悩みが軽減した」という効果が得られたことを報告している²¹⁾。また、本調査において教師は「学校の授業だけでは不十分」「保護者の理解・協力が得られない」と困難感を持っていることも併せて考えると、保護者との連携は必要であり、連携を視野に入れ一貫した性教育とするために保護者とともに課題解決へ向けて取り組む必要がある²⁰⁾。その具体的方法として、堀部（2011）は、幼稚園からの性教育の情報が保護者に届きにくい課題に対して、資料の作成過程に保護者の参加場面を設定し、原（2010）と同様の成果を報告している²²⁾。保護者も資料作成に参加することで、他のお母さんの体験談や対処法から具体的な方法を学んでおり、親自身の学びにつながっていた。このような、教員と

保護者が同じ目的に向かって活動することが性教育に対する共通理解につながり、性教育の行いにくさを軽減することになると考える。また、保護者のどのような内容を子どもの理解度に合わせて教えたらよいか分からないといった悩みにも、他の保護者からの具体的な方法を聞くことで学ぶことができると考える。ともに作業をする場が、親自身の学びあいの場になり、このような場を学校が設定することにも意義がある。

教員は性教育の実践によって身につけてほしいこととして「周囲の人との好ましい人間関係」をあげており、保護者は性教育の必要性を【社会に出たときに困らないようにするため】としている。このことは、性的成熟と人間関係の双方の観点から教えていくSREの考えを保護者も教員も求めているといえる。今後どちらか片方だけでなく、双方を関連付けながら教えていく授業実践や個人指導の実践を蓄積し、検討していく必要がある。

V. 今後の課題

児童生徒の個人差に対応するには、集団指導、個別指導、グループ指導の連携を適切に行う必要がある。しかし、今回は、教育課程への位置づけ、系統的定期的、個別の課題への対応について調査していないため、これらを調査し、集団導と個別指導をどのように組み合わせると個人差にも対応した性教育を実施できるのかを検討していく必要がある。

謝辞

本研究に御協力下さいました保護者の皆さま、教職員の皆様に感謝申し上げます。

VI. 参考文献

- 1) 西田充潔、田実潔：知的障害児に対する性教育について—養護学校における指導の現状と教員養成カリキュラムの必要性の検討—、北星論集(社)第42号、75-86、2005。

- 2) World Health Organization : Sexual and reproductive health. (2002)
- 3) WORLD ASSOCIATION FOR SEXUAL HEALTH Montreal Declaration "Sexual Health for the Millennium" 17th World Congress of Sexology (Montreal 2005)
- 4) 辻井正次、川上ちひろ：性と関係性の教育～発達障害の子どもの実践から～、健康教室第725号、34-35、2011.
- 5) 井上京子、菊地圭子、遠藤恵子：特別支援学校の児童生徒の性に関する調査 教員を対象として、山形保健医療研究13巻83-94、2010.
- 6) 菊地圭子、井上京子、遠藤恵子：特別支援学校の児童生徒の性に関する調査 保護者を対象として、山形保健医療研究13巻、71-81、2010.
- 7) 林真由美、荒木田美香子：知的障害児者の性に関する実態調査 保護者の性教育に対する意識及び支援希望について、日本公衆衛生雑誌55巻12号、830-836、2008.
- 8) “人間の性”教育研究協議会：新版 人間と性の教育第6巻 人間発達と性を育むー障害児・者と性 大月書店 2006.
- 9) 特別支援学校養護教諭：特別支援学校における性的虐待(性被害)への支援、保健室156号29-34、農山漁村文化協会、2011.
- 10) 公立中学校養護教諭：家族からの性的虐待、保健室156号35-39、農山漁村文化協会、2011.
- 11) 宮原春美、相川勝代：知的障害児・者の家族のセクシュアリティに関する調査 長崎大学医療技術短期大学部紀要14(1)、61-64 2001.
- 12) 祭美樹：養護学校における性教育 研究集録(37)、64-69、日本教育大学協会、2002.
- 13) 江田裕介、田川元康、松本美穂：障害児の性および性教育に対する教師の意識 上越教育大学障害児教育実践センター紀要 第6巻、19-27、2000.
- 14) 三俣共永、加瀬進：知的障害児への性教育授業実践の推進に関する予備的検討 東京学芸大学紀要1部門54、183-193 2003.
- 15) 西田充潔、田実潔：知的障害児に対する性教育について-養護学校における指導の現状と教員養成カリキュラムの必要性の検討-北西論集(社)第42号、75-86、北星学園大学、2005.
- 16) 山田晃生、水谷豊和：特別支援学校における性教育に対する意識と実態-国立大学法人の特別支援学校の教諭並びに養護教諭を対象とした質問調査から-、人間発達科学部紀要第5巻第1号、49-64、富山大学、2010.
- 17) 茨城県教育委員会：性教育の手引く特殊教育諸学校編>、H16.
- 18) 石川県教育委員会：性教育の手引(四訂版)-中・高等学校編-15-16、H18.
- 19) 加瀬進、蓮香美園、大関智子、細川雅彦、山田有希子：自主シンポジウム9、「障害児性教育実践ハンドブック(仮称)」の開発に向けてーワークシートの活用と保護者への情報提供を中心にー、日本特殊教育学会第47回大会、353-354、2009.
- 20) 大久保賢一、井上雅彦、渡辺郁博：自閉症児・者の性教育に対する保護者のニーズに関する調査研究、特殊教育学研究46(1)、29-38、2008.
- 21) 原美恵子：知的障害児に対する特別支援学校における性教育実施の状態と教諭と保護者の意識、治療教育学研究第30輯、61-69、愛知教育大学、2010.
- 22) 堀部美穂：家庭における性教育に関する資料作成の試み-保護者とともに作る取り組み-、健康教室第722集39-43、2011.

表4 保護者が子どもには性教育は必要であると思う理由 n=71

カテゴリー	n	サブカテゴリー	主な記述内容	n
社会に出た時に困らないようにするため	22 (31.0%)	自分の身を守るため	危険を回避するなどの行動を取ってほしいから、性被害にあわないよう身を守るため、自分だけでなく相手も大切に身を守るといったことを将来に向けて教えておく必要性を感じるから	9 (12.7%)
		社会に出た時に困らないようにするため	社会的にやっばいはいけないことは教えないと分らないので、何もわからないで失敗をするような事があっては本人も周りの人にも苦しみから、正しい性教育の知識等を身に付け、将来役立ててほしいから	8 (11.3%)
		他人の目を気にしない行動をするため	知的障がいゆえに、人前でも恥ずかしいことをするから、人前で平気で脱いでもしまったりするため	3 (4.2%)
		誤解がないようにするため	誤解をしないようにするため	2 (2.8%)
性に関する正しい知識が必要だから	12 (16.9%)	正しい知識が必要だから	正しい知識を身につけて、本能だけで行動しないために、思春期に入り、正しい知識を知る必要があると思うから、ある程度の性知識は必要である	6 (8.5%)
		教育の内容が理解出来るから	ある程度理解出来る子どもであり、必要な事例はすべて教えてもらいたい、本人もよく話せばある程度は理解出来ると思うので	2 (2.8%)
		教えないとわからないのだから	教えないとわからないので	1 (1.4%)
		男女の違いの理解が必要のため	男性と女性の「区別」が第一と考えるため。	1 (1.4%)
		性に対して理解がないから	性に対しての理解がないこと	1 (1.4%)
		理解出来る能力がある	理解出来ると思うため	1 (1.4%)
子ども自身の発達から必要性を感じる	11 (15.5%)	年齢的に必要であると思うから	年齢的に必要だと思うから、からだの成長とともに必要なものがあろうと思うから	4 (5.6%)
		定型発達しているため	二次性徴があるから、知的障がい児であっても身体の成長は健常児と同じだから、体が反応したときの処理の仕方を教えておく必要があると思うから	4 (5.6%)
		本能があるから	障がいをもった子どもでも本能はあるから	2 (2.8%)
		教育の内容が理解出来るから	一般的な生活に関しては自分でも出来るので理解する事は出来ると思う	1 (1.4%)
		性的な情報メディアに触れているため	情報が先行しすぎているから、テレビや映画、漫画である程度の情報があるから	4 (5.6%)
		異性への興味がみられるため	異性に興味をもちはじめたから、同性より異性とへの接触を好むから	4 (5.6%)
性に関する興味がみられるから	10 (14.1%)	性に関する興味がみられるから	多少興味があるように思う	1 (1.4%)
		異性とのかわり方が不安だから	異性とのかわり方が不安だから	1 (1.4%)
		親自身がうまく教えられないから	興味はあることだと思うが親ではうまく教えることが出来ないから	2 (2.8%)
		親の話を聞かないから	年齢的に家族の話を聞かないから、学校にお願いしたい	1 (1.4%)

表5 子どもには性教育は必要ないと考える理由

n=27

カテゴリー	n	サブカテゴリー	主な記述内容	n
性教育の内容が理解できないから	21 (77.8%)	障がいの程度(重度)により理解できないから	理解能力が低いから、教育を受けても理解出来ないから、抽象的な言葉が理解しにくいから、女性を異性として見ていないから、障害がとても重くて理解できないから	9 (33.3%)
		発達段階から考えてまだ早いから	もっと先でいいと思う、本能的に年齢になれば、知的に遅れがあるが性的なことに関してはまだ全然興味がない、高等部になったら必要だと思う	6 (22.2%)
		理解できないと思うから	教育の内容を理解できないと思うから、理解困難であるから	6 (22.2%)
性に目覚めしてしまう恐れがあるから	2 (7.4%)	性に目覚めしてしまう恐れがあるから	無理に目覚めさせる必要はないと思うから、性教育をすることが本当に大切なのかどうか親として納得していない	2 (7.4%)
興味がなさそうだから	2 (7.4%)	興味がなさそうだから	特にまだ興味がないようなので	2 (7.4%)
学校での性教育は必要ないと感じているから	1 (3.7%)	学校での性教育は必要ないと感じているから	我が家では小学部高学年から説明してきたから自分の子に関する限り、性教育はほぼ完成していると思っている	1 (3.7%)
マナーとしての性教育は必要である	1 (3.7%)	マナーとしての性教育は必要である	公共の場で(トイレや浴場)男女のマナー教育は必要と思う	1 (3.7%)

表6 性に関することを子どもに教えるににくいと感じる理由

n=66

カテゴリー	n	サブカテゴリー	記述内容	n	(%)
性に関する内容に教えるにきを感じ るから	32 (48.5%)	どの内容を教えたらいいかわから ない	具体的にどこまで伝えるべきかわむ、何を教えたらよ いかわからず教えることもしていない、何から話してよ いかわわからない。	8	(12.1%)
		子どもの理解度がわからない	どのように話したら理解できるかわからない、どこまで 理解できているのか、具体的にどのようにすれば理解し てもらえるかわからない	7	(10.6%)
		全てが教えるににくい	ほとんどすべてのことに関して、性に関すること全部	5	(7.6%)
		子どもが性的行動に対してどのよ うに話せばいいかわからない	街中で成人映画のポスターを見て質問されうまく答えら れなかった、興味関心にまかせて衝動的に異性と接触し てしまうから	4	(6.1%)
		「性行為」について教えるににくい	性行為のことについて、SEX について	4	(6.1%)
		「自慰行為」について教えるににくい	マスターベーションのこと	2	(3.0%)
		性に関する話をするに抵抗を 感じる	性交のこと、マスターベーションのことを具体的にはっ きり話すことに抵抗を感じるから	1	(1.5%)
		家庭での性教育に難しさを感 じるから	なかなか家庭では難しいと思います。	1	(1.5%)
子どもが性教育の内容を理解でき ないため	26 (39.4%)	子どもが理解できないため	理解力が不足、本人が難しいことを理解できない、言葉 を理解できないから、自慰を教えたとしても人前でして しまったりと理解できないので、理解するまでに時間が かかる子だから	16	(24.2%)
		言葉の意味を理解できないから	言葉の意味を理解できない、話をどこまで理解できるか 疑問で親の方でためらってしまう、簡単な話しか理解で きない	6	(9.1%)
		子どもが性に 関する興味ないから	興味ない	1	(1.5%)
		異性の違いがわからないから	異性の違いがわからない、	1	(1.5%)
		子ども自身の障がいのため	知的障害もあるし、聴覚障害もあるから	1	(1.5%)
		善悪の区別がつかないから	良い事と悪い事の区別がまだついていないから	1	(1.5%)
子どもが異性だから	4 (6.1%)	男の気持ちがわからない	男の気持ちがわからない、性の行動は男ではないからわ からない	3	(4.5%)
		子どもが異性だから	子が異性なので細かいところがわからない	1	(1.5%)
子どもが性に 関する話を聴か るから	2 (3.0%)	子どもが性に 関する話を聴かずか しがるから	本人がとても恥ずかしがるから	1	(1.5%)
		子どもが性に 関する話を聴か るから	性に関する話をとても嫌がり、いつまでも頭から離れず 大騒ぎになるから	1	(1.5%)
性教育の必要性を感じないから	2 (3.0%)	性教育の必要性を感じないから	自慰を教えたとしても、人前でしてしまったりと理解で きないのできちんと教えないほうが良いと感じるので教 えにくいです、教える必要はないと思う	2	(3.0%)

表7 学校で性教育が十分に行われていると感じる理由

n=9

カテゴリー	n	サブカテゴリー	記述内容	n	(%)
学校で行ってくれたことがある ことを知っているから	8 (88.9%)	先生が指導してくれているという実感 があるから	第二次性徴や、それにとまなう身辺処理等、細かく指導 してくれる点、男女のかわり方を指導してくださる、 子どもの理解度に合う性教育をしてもらっている	5	(55.6%)
		学校でできたことを子どもが家庭で話 してくれたから	話を聞いていることを覚えていて、聞いてみると話をし てくれる	2	(22.2%)
		先生から直接聞いたため	具体的ではないが中学部の先生から「性」という話を聞く	1	(11.1%)
障害の程度から十分に感じるか	1 (11.1%)	障がいの程度（重度）から十分に感じ るから	重度で息子にはあまり踏み込んだ内容は理解できない ので、十分に感じる。	1	(11.1%)

表8 学校で性教育が十分に行われていないと感じる理由

n=31

カテゴリー	n	サブカテゴリー	記述内容	n
学校からの性教育を実践しているという連絡がないから	17 (54.8%)	実施していることを聞いたことがない	たぶんまだしていない、性教育の話は聞いたことがない、実施した事実がない、学校で実際にやっているのかわからないので何とも言えない	12 (38.7%)
		学校の教育内容がわからないから	入学したばかりで学校の教育内容を把握できないため	2 (6.5%)
		情報が少ない	授業があることの情報が少ない	2 (6.5%)
		学校から連絡がないから	特に行われていないと思います(日誌等を見て)	1 (3.2%)
子どもの理解力などの個人差があるから	7 (22.6%)	個人差があるから	子どもによって理解力、成長の差があり、一人一人にあった性教育は難しいと思う、個人差があるので難しいと思う	4 (12.9%)
		子どもの理解力がないから	本人の理解力がない、重度の知的障害の子どもに理解させるのはそうとう難しいと思うから	3 (9.7%)
		「家庭に任せる」と担任から言われたから	以前担任に聞いた時、「学校では教えません、各家庭の考え方も違うのでご家庭でお願いします」とはっきり言われた	1 (3.2%)
学校に性教育を希望したが実践してくれないから	2 (6.5%)	相談したが指導してくれなかったから	個別面談などで家での子や日な本を見ていたことを話すが、それまででそれ以上(性教育)はしてくれない	1 (3.2%)
		子どもとの会話から	子どもからその話が出ない、家でそのような会話がなから	2 (6.5%)
教育課程にないから	2 (6.5%)	学校での授業の時間がなさそうだから	そこまで教える時間がなさそうだから	1 (3.2%)
		授業にない	授業にはないから	1 (3.2%)
必要性を感じないから	1 (3.2%)	必要性を感じないから	必要性を感じない	1 (3.2%)

表9 学校に望む性教育

n=21

カテゴリー	n	サブカテゴリー	記述内容	n	(%)
個に応じた性教育	6 (28.6%)	本人のレベルに合った性教育	子どもの発達に見合い、かつ理解出来るレベルの教育、子ども一人ひとりの能力差が大きく個別になるのでは、	3	(14.3%)
		個に応じた性教育	個人にあった教育、その子たちにあわせた性教育を指導してくれること	2	(9.5%)
		認知力・理解力に応じた性教育	認知力理解力にあわせた教育内容を吟味して行うこと	1	(4.8%)
親へのアドバイス	5 (23.8%)	親子で参加できる性教育	できれば、親と子が一緒に参加できる性教育があっても良いのではないのでしょうか 親と子が学べるような場があれば良いと思います	2	(9.5%)
		具体的な傾向と対策についてのアドバイス	具体的な傾向と対策について親にアドバイスして欲しい。(プリントなどが良いかも)家庭に任せたいしつけは何でしょう。	1	(4.8%)
		親への勉強会	親自身も、どのように対応していくべきかわからないので(特に男親)親への勉強会など、(こんな場面ではこのような対応がいいとか)を聞いて欲しい。	1	(4.8%)
		障害の程度によりどこまで教えるべきか	子どもの障害の程度により、どこまで教えるべきかを教えてほしい	1	(4.8%)
総合的な性教育	5 (23.8%)	全部	全部、教えられるならどういうことでも良い	2	(9.5%)
		いろいろ	いろいろなことを教えてもらいたい	1	(4.8%)
		正しい知識	淡々と「正しい知識」として教えて欲しい	1	(4.8%)
		性の大切さ、恐さ	性の大切さ恐さを教育してほしい	1	(4.8%)
男女の体のつくりとはたらき	2 (9.5%)	男女の体のつくりとはたらき	男女のからだのつくりとはたらき、男女の体のしくみと働き、性交	2	(9.5%)
学校での教育内容の情報公開	1 (4.8%)	どのようなことを教えているのか教えてほしい	まずは、学校で教えていることを教えてほしい	1	(4.8%)
男女に分けた性教育	1 (4.8%)	男女に分けた教育	男子高(クラス)、女子高(クラス)に分けて	1	(4.8%)
どのようにお願いしたらいいかわからない	1 (4.8%)	どのようにお願いをしたらいいかわからない	どのように性教育してもらえたら子どもたちが理解できるのかわからない	1	(4.8%)